

(4) 工事における社会的コストの低減
IV①工事におけるリサイクルの推進

麻袋再利用化の新技术導入で植生の土壌改良が不必要

美浜東BP山上盛土のり面植栽工事

【施策の概要】

道路の切土法面を周辺環境に配慮した自然法面に復元させる為に、麻袋のリサイクル材をマルチとして用いた「芽苗植生帯工法」を新技术活用パイロット事業として施行し、土壌改良を要する通例の工法に比べ施行費が約1/3程度に節減する。

【施策のポイント】

一般的な樹林化工法は、切土法面(1:1)の土壌条件軟岩、硬岩の場合は厚層基材吹き付けにより生育基盤を作り、ポット苗を植えるものである。

「芽苗植生帯工法」とは、のり面全面を麻製のマルチ材(米、ゴヒ豆等の数回使用した古袋をフェルト状に再生したリサイクル材)で覆い、苗木を3本/m²ずつ植えることにより、法面浸食や乾燥・凍結といった過酷な自然条件から苗を守るものである。一般的な工法と異なり、土壌改良を省略することが特徴である。

【施策の実施状況・イメージ図】

